

ヨツユビハリネズミ (*Atelerix albiventris*) の肉腫様腎細胞癌の1例

○長峯栄路、二瓶和美、大川内充輝、小野澤花純、柿沼陽子、浅井悠平、内田和幸

【背景】動物の腎原発腫瘍において腎細胞癌は、最も一般的な腫瘍であるが、稀に肉腫様の形態変化を伴う腎細胞癌が犬猫で報告されている。今回、ヨツユビハリネズミにおいて、肉腫様腎細胞癌の症例に遭遇したため、その病理学的特徴を報告する。

【症例】ヨツユビハリネズミ、メス、1歳5ヶ月。食欲不振、腹囲膨満を主訴に近医を受診。超音波検査にて右上腹部に腫瘤病変が認められ、試験開腹時に約6×5×6 cmに腫大した右腎臓が確認されたため、右腎臓摘出術が実施された。手術時、右腎臓に明らかな癒着は認められず、肉眼的に左腎臓に著変はみられなかった。術後11日目に斃死。

【病理所見】右腎臓断面では、大部分が白色から乳白色の充実性組織により占拠され、辺縁部では褐色調の組織で大小の嚢胞状構造が認められた。組織学的に、充実性組織では紡錘形から不整形の間葉細胞が束状に増殖し、核は楕円形から紡錘形で、核小体は1～数个、核分裂像は約3個/HPF、広範囲に壊死巣を伴っていた。嚢胞状組織では、尿細管上皮様の上皮細胞が大小の嚢胞～腺腔構造を形成しながら増殖していた。上記の間葉成分と上皮成分の境界は不明瞭で、両者は一部で混在していた。辺縁部で圧排性に萎縮した腎臓組織が僅かに認められた。免疫染色では上皮細胞がCytokeratin (AE1/3)、CK20、E-cadherinに陽性で、N-cadherin陽性細胞が僅かに認められた。間葉細胞は α -SMA、N-cadherin、Twistに陽性であり、Cytokeratin、E-cadherinの陽性所見も稀にみられた。

【考察】以上の病理学的所見から肉腫様腎細胞癌と診断した。本病態には、Twistによるcadherinのclass switchに起因する上皮間葉転換が関与していると考えられた。ハリネズミにおける腫瘍病変の報告は未だ少なく、貴重な症例と思われた。